

■チーム情報

■男子日本代表チーム



昨年度から就任したトーマス・ウイスマンヘッドコーチの下、強化を進める男子日本代表チーム。ウイスマンヘッドコーチの手腕は就任後初の公式試合から遺憾なく発揮された。まずは昨年8月に開催された「第3回 FIBA アジアスタンコピッチカップ」ではヨルダン、カタールら、アジアの新興勢力を撃破し準優勝。さらに11月の「第16回アジア競技大会」でもメダルこそ1歩届かなかったが16年ぶりのベスト4入りを果たし、新体制での強化が早くも形に現れた一年であった。

今年度の日本代表チームは2012年ロンドンオリンピック出場権獲得を最大目標と捉えながら、各選手の個の強化を尊重して長いスパンでの選手の育成強化を図ることを意識し、3つのグループに分けて強化活動を行っている。

日本代表としての実績を持ち合わせた選手が集まるグループ1には最年長の折茂武彦(北海道バスケットボールクラブ)を筆頭に、アジア競技大会の核であったガード陣の田臥勇太(リンク栃木ブレックス)、石崎巧(財団法人日本バスケットボール協会)、得点源である川村卓也(リンク栃木ブレックス)、若手の成長株、広瀬健太(パナソニックトライアンズ)、そして日本のインサイドを支える竹内公輔(アイシンシーホース)、譲次(日立サンロッカーズ)兄弟らが名を連ねる。国際経験や日本代表活動の実績を求められるグループ2に爆発的な得点力が持ち味の金丸晃輔(パナソニックトライアンズ)や、古川孝敏(アイシンシーホース)らが選出された。そして、将来の日本代表選手としての活躍が期待されるグループ3には鎌田裕也(大東文化大学)や比江島慎(青山学院大学)ら大学界のエースと、高い運動能力で素質十分の渡邊雄太(尽誠学園高校)が最年少16歳で選出され、3グループ延べ42名の日本代表候補選手が選出された。この42名の日本代表候補選手から、各大会のエントリーメンバーをそれぞれ選考していく。

日本代表チームはすでに8度の強化合宿を終え、6月10日から「第2回東アジアバスケットボール選手権大会」に臨む。今大会で更なる強化を進め、今年度最大の標的である「第26回 FIBA ASIA 男子バスケットボール選手権大会 兼 2012年ロンドンオリンピックアジア地区予選」で36年ぶりのオリンピック出場権獲得に挑む。

※選手所属は2011年6月1日現在。一部選手は移籍リストに公示中。

■S Oliver Baskets Wuerzburg(エス オリバー バスケツ ヴェルツブルグ)



エス オリバー バスケツ ヴェルツブルグは、2007年にドイツ・ヴェルツブルグで創立し、2007-2008シーズンにドイツ4部リーグ「Wuerzburg Baskets」としてスタートした。翌シーズンは24戦全勝で優勝、2009-2010シーズンは「Pro B」で3位となり、ドイツ2部リーグの「Pro A」に昇格。Pro Aでは2位となり、2011年4月、創立わずか4年目にして、ドイツのトップリーグ、Beko BBL(ドイツ連邦リーグ ブンデスリーガ)に昇格。ヴェルツブルグのバスケットボールの伝統を継承した。

今年からこのチームの指揮を執るのは日本でもポッシュ(JBLスーパーリーグ 2000-2002)、トヨタ自動車(JBLスーパーリーグ 2005-2006)でヘッドコーチを務めたジョン・パトリック氏。特筆すべきは3年間優勝から遠ざかっていたトヨタ自動車を就任1年の間に優勝に導いたこと。レギュラーシーズン、プレーオフを通じてわずか30戦6敗と圧巻し、自身もコーチオブザイヤーに輝いた。

また、世界でも最も優れたバスケットボールプレイヤーの一人である、ダーク・ノヴィツキーもヴェルツブルグ出身。ノヴィツキーは、ヴェルツブルグでバスケットボールを学び、1999年1月、NBAのダラスマーベリックスでその卓越したキャリアをスタートさせる前、1998年までヴェルツブルグリーグの「DJK s. Oliver Wuerzburg」でプレイしていた。

ヴェルツブルグ(人口133,000)は、ドイツ・バイエルン州の北部に位置し、1979年以来滋賀県大津市と姉妹都市であり、日本とは強いつながりを持っている。日本で長年に渡り活躍し、彼の功績を称えた「シーボルト記念館」が長崎県に建てられている医師兼科学者のフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト(1776-1866)も、ヴェルツブルグ出身である。